



体の抵抗力が落ちたときに 出やすい 帯状疱疹たいじょうほうしん (ヘルペス)

帯状疱疹は、水ぼうそうのウイルスが引き起こす病気です。帯状疱疹は一般にヘルペスと呼ばれることが多いですが、このウイルスがヘルペス族に属するためです。ほとんどの人は幼少期に水ぼうそうになったことがあると思いますが、水ぼうそうのウイルスは水ぼうそうが治った後も、実は何十年も体の神経の中で息を潜めて生き続けています。そこで、風邪を引いたり仕事で無理をしたりして体の抵抗力が落ちたときに、潜んでいたウイルスが暴れだしてくるのが帯状疱疹です。

薬を中心に、痛み止めや塗り薬を使います。ただ、根本的な原因は体の抵抗力が落ちたことにあるので、十分な休養をとってください。患部を冷やしたり水ぶくれをつぶしたりしてはいけません。入浴は長風呂でなければ痛みが楽になることが多いようです。

帯状疱疹はうつる病気ではありませんが、水ぼうそうにかかったことがない人には、水ぼうそうとしてうつることがあります。治療は皮膚科で行います。早く治療しないと、ウイルスによりダメージを受けた神経が回復しなくなり、帯状疱疹が治った後もずっと痛みが続く帯状疱疹神経痛になります。帯状疱疹を疑ったら、できるだけ早く皮膚科を受診してください。

神経の中でウイルスが暴れるので非常に痛いですが、症状には個人差があります。病気が進むにつれ、小さい水ぶくれが出てきたり、かさぶたになったりしてきます。これらの症状は、右か左か体の半分にしかりません。治療は水ぼうそうのウイルスをやっつける抗ウイルス

吹田市医師会 森原 潔もりはら きよし